

ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

寺井章人・根本守仁・磯田能年・大澤宏史

1. 目的

近年著しく減少したホンモロコ資源の回復を目的に、2006年度から大量種苗生産放流が実施されている。

水産試験場では、天然卵からの親魚養成(F0)および(公財)滋賀県水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚(F1)の生産に必要な卵の提供を実施した。

2. 方法

1) 親魚養成

①天然卵の採集

2021年4月7日から5月18日に、長浜市湖北町延勝寺地先、大津市小野地先、守山市今浜地先の琵琶湖、西の湖および西の湖に流入する山本川で、柳の根や藻、砂礫等に付着したホンモロコ卵を採集した。

②飼育管理

採集した卵から得られたふ化仔魚を、30L水槽に1水槽あたり1,000尾以内を目安に収容し、ツボワムシを給餌した。30L水槽での飼育期間は約2週間とした。

その後は、40㎡の屋外池に放養して飼育した。放養から約20日間はワムシ、それ以降は配合飼料を給餌した。

2) 経年魚からの採卵

2018年～2020年度に生産した親魚(1歳～3歳)から採卵を行った。採卵は、4月12日から4月15日にそれぞれ実施した。方法は、自然産卵による採卵とし、水面に浮かべた人工基体に産卵したものを回収した。

3. 結果

1) 親魚養成

①天然卵の採集

卵の採集は期間中に7回行い、約17,000尾のふ化仔魚を得た。

②養成

0歳魚において8月中旬に細菌性感染症によるとみられる大量死が発生したものの、11月時点の親魚量は下表1に示す通り、7面の池で合計17,197尾、153.35kgであった。

表1 ホンモロコ親魚養成状況

年齢	池数(面)	尾数	重量(kg)
0歳	3	8,676	50.04
1歳	2	5,879	58.79
2歳	2	2,642	44.52
合計	7	17,197	153.35

2) 経年魚からの採卵

採卵結果を表2に示した。4月12日から15日に合計1,233,000粒の卵が得られた。しかし、池ごとの採卵量にばらつきが大きく、採卵がゼロの池も複数見られ、安定した採卵には越冬以降の親魚の適正な管理が重要と考えられる。

卵は23,000粒を当場で使用し、1,210,000粒を(公財)滋賀県水産振興協会へ提供した。

表2 ホンモロコ採卵結果

池番号	年齢	親魚尾数 (2020年11月時点)	採卵量(千粒)
7A-1	3	685	102
7A-2	2	1,359	0
7A-3	1	3,722	0
7A-4	1	4,634	0
7A-5	3	927	294
7A-6	2	1,405	0
7A-7	2	1,425	0
7A-8	1	4,982	837
計			1,233